

令和3年度 社会福祉法人 協愛福祉会 施設自己評価表

(保育理念)

Happy+Natural
Happy+challenge

(保育目標)

げんきな子 やさしい子
がんばる子 ゆたかな子

A：よくできている

B：わりとできている

C：一部改善が必要

D：改善しなければならない

	内容	評価	現状・課題
保育目標について	(1)保育士一人一人が、協愛福祉会の保育理念、保育目標を理解している	B	・法人理念や子どもを主体とした保育を言葉では理解しているが、その理念を保育へ繋げていくことが難しいようである。現段階でも実践を交えながらわかりやすく心がけているが、引き続き課題である。
	(2)子ども一人一人の主体性を大切にされた保育をしている	C	
	(3)すべての子どもについて一人一人の存在と、その人種を尊重している	C	
保育について	(1)保育計画に基づき、子ども一人一人の発達の姿や興味を把握して、年間計画、月のカリキュラム、週案を立てている	B	・一生懸命に保育に向きあっていることは伝わるが、計画通りに保育をしがちである。計画はあくまでも計画であり、目の前にいる子ども達の姿を把握して柔軟に変更できるようになってほしい。また、子ども達への関わり方も年齢に応じて違ってくるが、曖昧になってしまったことが多く、結果以上児保育が難しい1年でもあった。フリー職員が次年度しっかり指導できるように体制を整えていきたい。
	(2)3歳未満児は、現在の姿を理解し、一人一人に保育計画を立てている	C	
	(3)素材・用具を適切に使用している	C	
	(4)環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している	C	
	(5)職員間で子どもへの理解を深め、お互いの考えを十分に理解したうえで、保育を行っている	C	
	(6)1日の流れ(デイリープログラム等)は現行でよい	C	
食育について	(1)食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせて食育計画を立てている	C	・食育計画はあったのだが、コロナ禍も重なり冬以降は計画を実行するのが難しかった。しかし一方で行事(もちつきや節分など)の経験を味わえるように知恵をだしあい、ひなたの風なりに取り組めたところはよかった。次年度は難しく考えず、未満児からもっと食育を行ってほしい。
	(2)栄養士、保育士が連携し、会議等で意見を交わしながらより良い給食になるよう努めている	B	
	(3)アレルギー疾患等の子どもに対し医師の指導の下、保護者との連携を図り適切な対応を行っている	A	
役員研修分担任	(1)職員の仕事や役割が明確であり、それぞれの仕事を責任を持って行っている	C	・私自身が園長1年目で当初は現場に加担しすぎたところが反省である。報告・相談などが主任→園長であることは伝えていたが、主任を飛び越えて園長への連絡が多かった。年度後半頃より皆で意識し始め、改善できるよなっている。次年度も引き続き主任・副主任・リーダーとそれぞれの役割が意識をもって取り組めるようになっていきたい。
	(2)危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が整えられている	C	
	(3)園内外の研修は計画を立て実行している	B	

		評価	現状・課題
保護者支援・情報	(1)保護者に対して、丁寧な言葉遣いと、気持ちの良い対応を心掛けている	C	・未満児は帳面を通して保護者との連携がよく取れているように思うが、以上児は保護者の伝え方が課題である。ひとり一人細かく伝えていくのは難しいことから、ドキュメンテーションやPIPIOなどでしっかり保育内容を伝えていけるようにしていきたい。
	(2)保護者に子どもの伸びているところや課題を伝え、連携をとっている	C	
	(3)様々な園行事を通して保護者との良好な関係を築こうとしている	B	
	(4)園日より、ドキュメンテーション、きつずノート、ホームページ等を通して、保育内容や子どもの姿や保護者への情報を発信している	C	
	(5)子どもの個人記録は、個人情報保護法に基づいて管理している	A	
	(6)職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している	B	
開かれた保育園	(1)小学校と連携し、情報交換をする機会を待つ	A	・気になる子どもへの対応について外部の専門機関と連携を取りながら対応はできているが、次年度以降、障害児専門リーダーがまず窓口になってもらって対応できるようにしていきたい。
	(2)気になる子どもの対応について、外部の専門機関と連携をとりながら対応している	C	
子育て支援	(1)地域で子育てをしている親子の交流の場となるように努めている	D	・子育て支援はできておらず、次年度以降の課題である。しかし、子ども達のことや保護者自身のことを相談できる環境はできる限りつとめている。
	(2)子どもの心身の発達や育児不安について気軽に相談できるように努めている	C	
	(3)園生活の子どもの様子を地域にも発信している	D	

総合的な現状と課題

開園3年目になり職員は法人理念に基づいて保育を行おうとする意識はあるが、クラスによって温度差が生じた1年であった。確かに対応に難しい子どももいたが、フリー職員(主任・副主任)が実際に入り子どもとの関わり方で気になる点が多数見つかった。その都度、職員を多めに配置したり、他の職員の保育を見れるように配慮したりと対応したが、結果変わらないことが多かった。その一つに目先の問題を解決し、根本的には納得しないままになっていること点があげられる。法人理念の保育の中心は以上児であることから次年度は積極的にフリー職員がクラスに入り、職員配置にも今以上に慎重に検討する。

また、現在コロナ禍であり保育で制限されることが多くなっている。状況を見ながら子ども達にとって大切だと感じられることは制限を解除できるように対応していきたい。次年度は3つのD(出来る人が出来るだけ、出来ること)を意識して取り組むようにする。

園名 ひなたの風保育園 氏名 岡本 満江